

一般財団法人 医療関連サービス振興会  
第239回 月例セミナー

在宅医療・介護における多職種共働の必要性

「船橋市南部在宅療養研究会」

平成29年7月10日（月）

講師：（公社）日本医業経営コンサルタント協会 副会長  
（一社）日本病院会 監事  
医療法人弘仁会 板倉病院 理事長

梶原 優 氏

## <講師ご略歴>

### 梶原 優 氏

(公社) 日本医業経営コンサルタント協会 副会長

(一社) 日本病院会 監事

医療法人弘仁会 板倉病院 理事長

#### ■略歴

昭和47年3月 日本大学医学部卒業、昭和47年6月 日本大学医学部附属板橋病院第三外科入局、昭和49年1月 国保旭中央病院外科勤務、昭和52年7月 医療法人弘仁会板倉病院院長就任、昭和58年4月 大東製薬工業株式会社代表取締役就任、昭和62年3月 医療法人弘仁会板倉病院理事長兼務、などを経て、平成10年8月 医療法人弘仁会理事長就任。(他役員 大東製薬工業株式会社最高顧問・社主、株式会社日本病院共済会 監事)

#### ■主な活動等 (2017年7月現在)

##### 【全国】

- 一般社団法人日本病院会 監事
- 一般社団法人日本病院会 政治連盟幹事長
- 一般社団法人地域再生医福食農連携推進支援機構 理事
- 一般財団法人日本地域医療推進機構 理事
- 公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会 副会長
- 公益社団法人全国老人保健施設協会 代議員
- NPO法人日本・中東医学協会 理事
- NPO法人病院地域医療推進協議会 理事
- 日本大学医学部同窓会 会長
- 一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合 実務委員会委員
- 一般社団法人外科系学会社会保険委員会連合 検査委員会委員

### 【千葉県】

- 千葉県認知症対策推進協議会 委員
- 千葉県医療審議会 委員
- 一般社団法人千葉県老人保健施設協会 副会長
- 千葉県医業健康保険組合 理事

### 【船橋市】

- 公益社団法人船橋地域福祉・介護・医療推進機構 監事
- 船橋市高齢者虐待防止等ネットワーク運営委員会 委員
- 船橋市老人保健施設協議会 会長
- 船橋市介護認定審査会 委員

### 【学会】

- 日本病院学会 評議員
- 日本臨床外科学会 評議員

平成29年7月10日（月）午後3時～  
一般財団法人医療関連サービス振興会  
第239回月例セミナー  
日本教育会館

## 在宅医療・介護における 多職種共働きの必要性

「船橋市南部在宅療養研究会」

医療法人弘仁会 理事長  
一般社団法人日本病院会 監事  
一般社団法人日本病院会 政治連盟幹事長  
公益社団法人日本医業経営コンサルタント協会 副会長

梶原 優



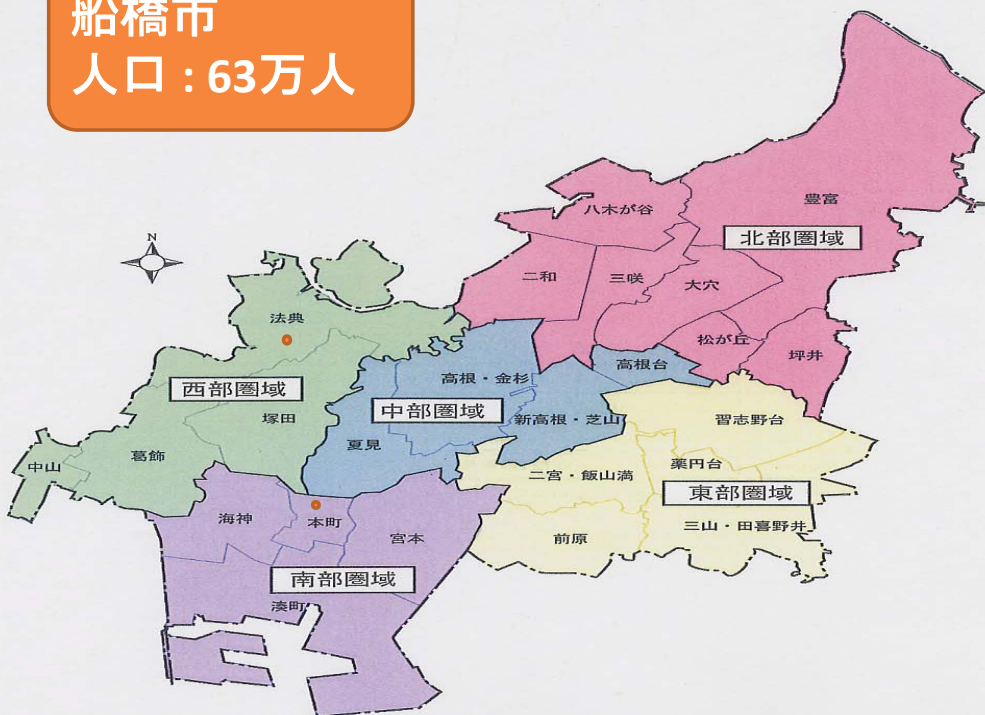
## 弘仁会の理念 ～安心して暮らせる町に～

地域の方のセーフティネットとして、  
時代の変化に対応し、各施設と連携し、  
患者様、利用者様を中心とした健康増  
進・保健・医療・看護・介護・福祉の  
施設から在宅までのトータルヘルスケ  
アを行なうこと

# 千葉県高齢者保健福祉圏域



船橋市  
人口：63万人



# 在宅療養について

- 理念に基づく行動  
医療法人弘仁会：安心して暮らせる町に  
板倉訪問クリニック：願いに応える
- 在宅療養  
人々が住み慣れた地域で家族や地域の方々と安心して生活できるよう、関連多職種が連携し支援すること。
- 在宅医療  
単に医療を提供することではない。医師は医療を通し全人的なかかわりの中で生活支援を行なうこと。

4

## 在宅療養支援診療所開設の経緯

1. 患者さんの高齢化に伴い、平成16年より往診を行なっていたが、患者さんの増加と在宅診療という視点から病院外に在宅療養支援診療所を開院した。（H19.10.1）
2. 地域連携なくして在宅療養は成立しないので、地域の在宅関連多職種と連携し、船橋南部在宅療養研究会を同時に設立した。

5

# 在宅療養支援病院・診療所の構築

- 訪問診療で往診ではない  
ケアマネを中心に生活援助の計画を立てる
- 多職種連携の重要性  
顔の見える連携：組織の構築  
地域生活圏域  
地域発  
行政を巻き込む
- 組織の維持  
ワーキンググループで責任分担  
定期勉強会  
実地行動・セミナー  
学会発表  
懇親会

6

## 船橋南部在宅療養研究会

平成19年10月設立

在宅関連85施設参加：医・歯・薬・看・CM・HP・用具・食品・製薬

作業班：地域連携カルテ班 ⇒ 病診連携

褥瘡班 ⇒ 連携ノート（褥瘡編）

動作介助班 ⇒

- 動作介助班勉強会 毎月1回以上
- ケイヨウケアインテリジェント社員研修会
- サービス提供責任者研修会
- 第1回福祉従事者フォローアップ研修
- H24年度ホームヘルパーリフレッシュ研修
- H24年度サービス提供責任者現任者研修
- 千葉県介護支援専門員協議会 第61回研修会演題発表
- 家族のための介護教室
- ホームヘルパースキルアップ研修

栄養・緩和班 ⇒ 連携ノート（緩和編）

認知症ネットワーク班

※ 会員がいずれかに関わり活動する

7

# 船橋南部在宅療養研究会

業績（H19.10～H28.3）

勉強会：58回

公開セミナー：8回

学術集会：8回

共催勉強会：4回

学会発表：日本褥瘡学会関東甲信越地方会

日本プライマリ・ケア学会

日本褥瘡学会千葉県支部褥瘡セミナー

日本在宅ホスピス協会全国大会in船橋（後援）

●大会参加者 300名

●市民公開講座 250名

日本褥瘡学会学術集会

日本在宅医学会大会

8

# 船橋南部在宅療養研究会

## 【雑誌掲載】

- 千葉県高齢者保健福祉計画 在宅療養ネットワーク

～船橋南部在宅療養研究会の取り組み～

インタビュアー：永谷 計（板倉訪問クリニック）

- Credentials（クレデンシャル）MAY2009 No.8

～在宅緩和ケアまで対応する薬剤師～

インタビュアー：高橋 眞生（カネマタ薬局）

永谷 計（板倉訪問クリニック）

- Together 2009.6 Vol.3

～地域ネットワーク 成功のヒント～

インタビュアー：永谷 計（板倉訪問クリニック）

- JA HMC 2010 Vol.21 No.3

～地域連携の在り方を船橋南部在宅療養研究会で考える～

インタビュアー：永谷 計（板倉訪問クリニック）

9



## 船橋南部在宅療養研究会

### 【雑誌掲載】

- Medical Tribune Vol.43 No.40  
～第12回日本褥瘡学会・褥瘡実態調査～  
永谷 計（板倉訪問クリニック）  
小林 千夏（アースサポート船橋）
- Japan Medicine No.1643  
～在宅医療の現場から～  
永谷 計（板倉訪問クリニック）
- Cape Case Study Journal Vol.5  
～携帯型接触圧力測定器（パームQ）の在宅での利用～  
永谷 計（板倉訪問クリニック）
- 時事通信社「厚生福祉」2012年6月15日号  
～顔の見える連携へ～  
高木 恒雄（高木医院）
- 月刊ケアマネジメント6月号  
～在宅癌終末期の褥瘡～  
永谷 計（板倉訪問クリニック）

10

## 船橋南部在宅療養研究会

- 在宅高齢者栄養調査実施  
（対象：255名）
- Zarit介護負担尺度を使用した在宅介護負担度調査実施  
（対象：424名）
- 強化型在宅療養支援病院、診療所のネットワーク設立
- 認知症地域ネットワーク設立

H25年度より

公益財団法人在宅医療助成勇美記念財団の助成を受ける

11

# 勉強会・セミナー



12

## 在宅療養支援病院

在宅療養支援診療所と同じことを行なうのか？

スタッフの確保：地域貢献の理念

救急・重症・難病等の対応から

在宅対応への変換

24時間対応

地域連携構築：行政が主導

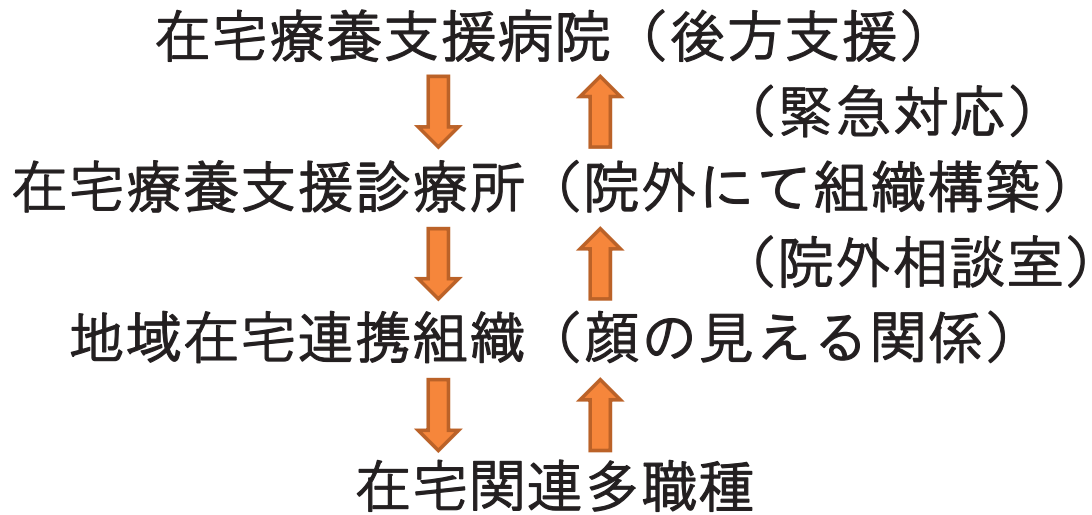
病院が主導

事業所が主導

在宅医が主導

13

## 地域における在宅療養連携



14

## かかりつけ医と後方支援

15

## 在宅療養を行なうために

- 在宅療養とは  
人々が住み慣れた地域で家族や地域の方々と安心して暮らせるよう、関連多職種が連携し支援すること。
- 在宅医療とは  
単に医療を提供することではない。医療職は医療を通し全人的なかかわりの中で生活支援を行なうこと。
- そのためには理念に基づく行動  
安心して暮らせる町に。  
本人、家族の願いに応える。

16

## 在宅療養とは・・・

- サービス提供ではなく  
ホスピタリティの提供
- 笑顔の中で納得できる生活と  
死を受け入れ迎える環境整備

17

## 後方支援:訪問・外来機能

### 1.専門医

精神科・皮膚科・眼科・耳鼻科・その他専門医

### 2.包括支援センター・民生委員

虐待・生活支援

### 3.保健所

精神疾患・感染症

### 4.その他

弁護士・ボランティアなど

18

## 後方支援:入院機能

### 1.病院

急性期対応病院（在宅療養支援病院など）

地域医療支援病院

### 2.緩和ケア病棟

地域癌拠点病院

### 3.ホスピス

終末期ケア

### 4.施設

介護療養・保健・福祉施設

19

## 後方支援病院に求められること

- 1.緊急時対応
- 2.専門職による支援
- 3.レスパイト入院
- 4.緩和コントロール
- 5.資材提供
- 6.検査
- 7.講師派遣
- 8.その他

20

## 看取りの説明

- ※サポート体制の確認  
家族・親族・友人・ボランティア  
関連多職種
- ※説明
  - 1.終末期の病状
  - 2.不安時、急変時の対応
  - 3.後方待機病院の説明
  - 4.親族との情報共有
  - 5.死亡時の対応
- ※年間平均50名の看取り

21

# 在宅療養連携 在宅医療連携拠点

## 1.地域連携

多職種の参集

生活圈＝療養圏単位

## 2.資質の向上（質の担保）

勉強会・セミナー・講演会

## 3.問題点の抽出と解決

ワーキンググループ・効果、検証（学会発表）

## 4.組織構築

方向性・PDCAサイクルによる持続性

（船橋南部在宅療養研究会の活動より）

22

ご清聴ありがとうございました

23